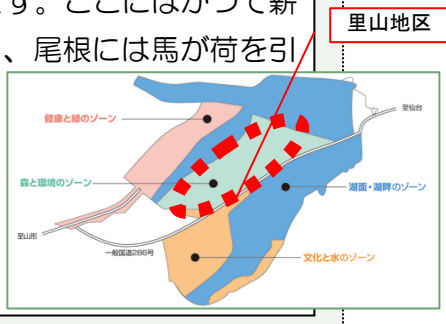
2014年9月27日発行

みちのく森の楽校だより　第6回

みちのく公園「里山地区」とは？

　みちのく公園「里山地区」は、仙台市の水瓶である釜房湖に面した里山です。ここにはかつて薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100 年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡もみられます。

　みちのく公園では、この「里山地区」を、釜房湖という**仙台市の水源を涵養するかけがえのない森**であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、**人と自然とのかかわりが培ってきた里山の自然や文化**を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



9月27日（土）晴れ　　秋の訪れを感じる中での活動でした！

　森の楽校の第６回は、９ 月の末、お彼岸を過ぎました。快晴で、気温はほどほど、とてもさわやかな秋の訪れを感じる中での活動でした。

　今日から「あかまつだいら」での活動を開始します。まずは、材料を調達するための「木こり体験」！手のこで、スギの木を切りました。切った木は玉切りにして皮を剥きました。

プランター畑の野菜の収穫

　プランター畑の夏野菜もそろそろお終い。葉っぱが黄ばんできました。この夏はずいぶん楽しめましたね。

　それでも、ナスが８個、ピーマンが１５個、ミニトマトも収穫できました。

サツマイモの茶巾絞り

　「秋の味覚」ということで、栗ご飯にしようかと考えましたが、残念ながら栗はまだでした。その代わりとして、サツマイモご飯を大がまで炊きました。残ったサツマイモで「巾着絞り」を作りました。サツマイモを茹でて砂糖と生クリームを加えてつぶして、ラップに包んで茶巾絞りにします。

ツリーハウスと里山冒険遊び

　会員活動の傍ら、一般のお客様にはツリーハウスや冒険遊びで楽しんでいただきました。

　秋の訪れとともに、里山にも多くの子供たちが遊びにきてくれました。

スギの木を切りました！

新しい「ものづくり」の活動を開始するには、材料となる木材の調達から始めます。ということで、今日のメインに活動は、木を切る体験！

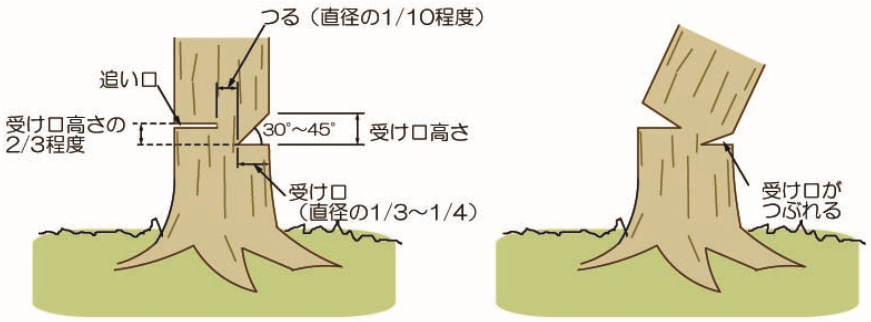
ボランティアが講師になって実際にやってみて手順や注意事項を説明しました。

まず木を倒す方向に障害となるものがないか確認します。
その方向に「受け口」を作ります。受け口つくりでは斜めに切り込みを入れるのがなかなか大変。

その次は「追い口」づくり。きちんを「つる」を残します。交代でのこぎりを入れていきました。

その後は、「追い口」にクサビを打ち込んでいくと、ゆっくり、ゆっくり、幹が傾いていきます。そのあとは大きくが傾き、ズドーンとダイナミックに木が倒れました。

木を倒すことは本当に危険な活動なのです。お互いに注意しながら活動しました。



追い口

受け口

クサビ打ち

伐倒

スギの木の皮をむきました。

切ったスギの木は枝を払い、４ｍの長さに玉切りして、「あかまつだいら」に運搬しました。

切った木はなるべく早くに皮を剥きます。伐採した木を生木まま放っておくと腐ってしまうのです。

秋のお彼岸までは木が水を吸っているので、皮が剥きやすいのです。お彼岸を過ぎてしまい、時期的にはギリギリでしたが、まあまあ、剥きやすかったです。

木の皮に鉈で切れ目を切れて、木のヘラをグイっと入れ込むと、きれいに剥けました。剥いた皮は屋根材に使えるので保管しておきました。

里山冒険遊び

「あかまつだいら」で子供たちは木を使った遊びを展開していました。

板材を作った残りを使ってシーソー遊び。乗る位置や人数を工夫してバランスを取ったり。

2 本の木を使ってハンモックを吊ってもらって、ブラブラしたり。

里山は、工夫次第で遊びの宝庫です！

第７回の会員活動は１０月２５日（土）です。その前の１０月１８日には馬般の実演イベントがあります。